

地域力を活かしたハンドボール選手権大会～地域とチームがシェイクハンド～（富山県氷見市）

取組概要

平成17年度から本市を会場として開催されている「春の全国中学生ハンドボール選手権大会」は、各都道府県の中学生代表チームが一堂に会する唯一の大会である。市の働きかけにより、延べ1,000人を超える地域住民が、地域ごとにそれぞれ担当する出場チームを応援する「応援サポーター」となり、彼らによる応援、歓迎や選手、チーム関係者との交流等が行われている。

人口 48,410人 (H30.1.1現在)
担当 地域振興課

取組の効果

【地域住民への効果】 応援サポーターは、地区が一丸となって応援することで、一体感が生まれ、「氷見＝ハンドボールのまち」という意識が醸成され、応援する都道府県に対する愛着も湧いている。
【出場チームへの効果】 知らない地で試合を行う選手にとって地元住民の応援があることで、安心感と心強さを与えているとともに、卒業後に再び氷見を訪れることにもつながっている。



応援サポーターと保護者による応援

創意・工夫した点

単なるスポーツ大会の運営にとどまらず、行政、学校、観光協会、商工会議所、ボランティア団体など幅広い分野の団体を巻き込み、住民の大会参加を促している。

他団体へのアドバイス

出場チームを応援、サポートする“応援サポーター”を地域住民が担うことで、住民参加型の大会とし、ハンドボールを通じた郷土愛の醸成に結びつき、他地域との交流も生まれている。



選手と応援サポーターにより植樹された桜
(愛媛県代表チームと地元島尾地区)